釜の沢･東俣

2009、11、7～8
L菊地（記録）、志満、安藤
11月7日（晴れ）

西沢渓谷入口から林道を歩き出す。ハイキング姿の人は多いが沢に行く人は我々の他にないようだ。林道沿いはまだ紅葉しているが、山の上は既に葉が散っている様子だが青空が気持ち良い。東沢のゴルジュや釜を高みの見物しながら登山道を行く。

山の神から河原に降り立ち遡行を始める。11月とあって流石に水は冷たいが殆ど濡れる事も無く気温も高いので遡行に支障はない。単調なゴーロが続くが、ナメの発達した支沢の東のナメなどを眺めながらのんびり歩く。だがそこらじゅうに大木が溜まり数十年前に来た時とは様変わりしていた。
釜の沢に入ると魚止めの滝が現れ、心なしか釜が小さくなった様な気がした。滝上から続く千畳のナメは健在でツルツルに磨かれた岩肌の上を落ち葉が静かに流れて行く。その後小滝が幾つか続くが、濡れずに済む物は滝登りを楽しみ1箇所補助ロープを使用した。程なくして両門の滝が現れる。水量が減ってやや迫力に欠けるが左右からバランス良く流れ落ちる様は何度見ても美しい。直登は困難なので左岸の巻き道を行く。

滝上からは穏やかなゴーロ帯となり、快適そうな幕営適地が続き早々に今夜の泊まり場を決める。辺りには幾つも焚き火跡があったが、根ごと抜け落ちて流されて来た倒木等が多く薪集めには苦労しなかったが、荒れていく様には素直には喜べない状況。だが今回は半分焚き火目的なので、明るい内から大いに焚き火を楽しんだ。

11月8日（晴れ）

前夜は満点の星空だったが放射冷却の冷え込みも無く朝を迎える事が出来た。快適だった幕営地を出発すると、長いゴーロ歩きが続き倒木も目立つ。谷が狭まり多段の小滝を越えるとミズシ沢が左から流れ込む。ここからは谷は更に荒れ埋まったナメも目立つ。稜線が近くなると、それ程寒さは感じな

いが水流沿いには薄氷が張っている。木賊沢を渡る所は辺り一面氷で滑ったら厄介だ。ナメ交じりの急な沢をつめて行くと、見覚えのあるポンプ小屋。立派な道が有りたちまち甲武信小屋に辿り着く。

　最近降雪があった様で、小屋の周辺には薄っすら雪が残っていた。雪を見ると思わずスキーシーズンが待ち遠しくなってしまう。せっかくなので山頂に行き展望を楽しんでからすっかり葉の散った戸渡尾根で下山。この沢は殆ど濡れる事が無いので沢収めで晩秋に訪れるには最適の沢だと思った。

コースタイム：
7日　西沢渓谷Ｐ7：15～釜ノ沢出合11：50～両門ノ滝13：00～幕営地13：55
8日　幕営地8：10～ミズシ沢出合9：35～

地形図：金峰山、雁坂峠